

第3章 セットアップについて

本章ではSCSIインターフェースボードの設定を変更する方法を説明します。従来、SCSIインターフェースボードの設定はディップスイッチなどで行っていましたが、本製品はボード上のROM（リード・オンリー・メモリ）に書き込まれたユーティリティ「SCSIインターフェースボードセットアップ」を使用して、簡単に設定することができます。

SCSIインターフェースボードセットアップ（以下「セットアップ」と略記）が必要になるのは、以下のような場合です。

- ・パソコン本体の機種により、設定の変更が必要な場合。（機種については、「1.2 接続可能なパソコン」をご参照ください。）
- ・併用する他の拡張ボードなどと割り込みやDMAが重複しているため、これを変更しなければならない場合。
- ・本製品の一部機能（クイックリスタート、フォーマットプロテクトなど）を使用する場合。

本製品は多くの場合、接続だけで動作するようにあらかじめ設定されていますが、上記のような場合セットアップが必要になりますので、使用前に本章の内容をお読みいただくようお願いします。



ご注意

セットアップは、必ず使用するすべてのSCSI機器を接続してから行なってください。また、SCSIハードディスクを接続する場合は、必ずハードディスクのフォーマットをする前にセットアップを行なってください。

3.1 セットアップの起動

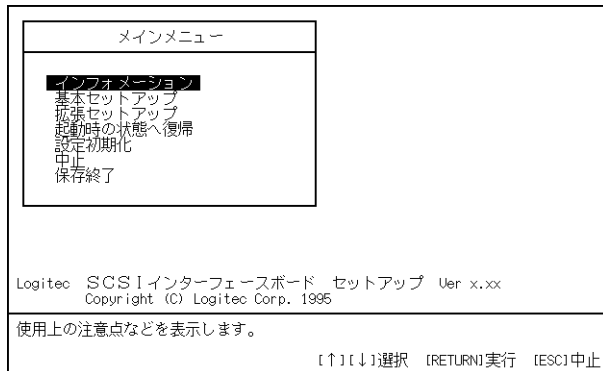
セットアップを起動したい場合は、SCSI機器、パソコン本体の順に電源を入れ、キーボード上の〔CTRL〕キーと〔L〕キーを押し続けてください。（ビープとブザーが鳴り続けたら、キーを離してください。）

Point

ポイント

〔CTRL〕 + 〔L〕キー・・・セットアップの起動

このようにするとセットアップが起動し、以下の画面（メインメニュー）が表示されます。

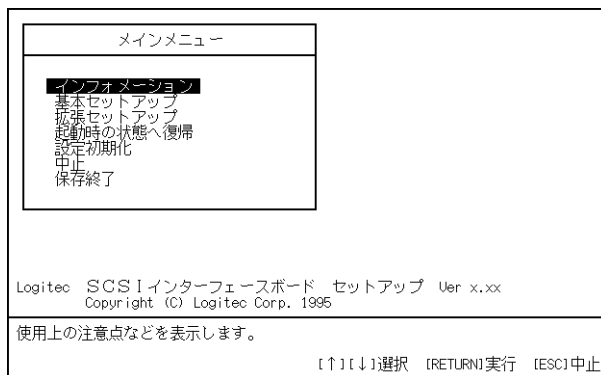


ご注意

もし、上記の画面が表示されない場合は、パソコン本体のリセットボタンを押して、同じ操作を行なってみてください。

3.2 メインメニューについて

セットアップ起動時、画面にはメインメニューが表示されています。ここで **↑** キーを使用してカーソルを項目にあわせ、**Enter** キーを押すことにより各項目の処理を行なうことができます。



インフォメーション

Point

セットアップに関する最新情報、特殊なセットアップを行なわなければならない機種に関する情報などを表示します。この内容は必ず最初にお読みください。

基本セットアップ

SCSI インターフェースボードを使用する上で、基本となるセットアップを行ないます。詳細は 3.3 節をご参照ください。

拡張セットアップ

パソコン本体の機種によって行なう特殊なセットアップ、もしくはマルチベンダ機能に関するセットアップなどを行ないます。詳細は 3.4 節をご参照ください。

起動時の状態に復帰

「基本セットアップ」/「拡張セットアップ」で設定した内容を破棄して、セットアップ起動時の状態に設定を戻します。この項目は「保存終了」を行なうまで有効ですが、保存終了してしまった内容を元に戻すことはできません。保存終了した内容を初期化したいときには、次の「設定初期化」を選択してください。

設定初期化

それまでに設定したすべての内容を破棄して、工場出荷時の状態に設定を戻します。セットアップの内容に不都合があり、システムが起動しなくなった場合などに使用します。

中止



「基本セットアップ」/「拡張セットアップ」で設定した内容を破棄して、セットアップを中止します。これを選択すると設定内容はメモリに保存されません。

保存終了

「基本セットアップ」/「拡張セットアップ」で設定した内容をSCSIインターフェースボード上のメモリに保存して、セットアップを終了します。「基本セットアップ」/「拡張セットアップ」で設定を変更した場合はこの項目を選択して設定内容の保存を行なってください。

3.3 基本セットアップについて

メインメニューから「基本セットアップ」を選択すると、以下のよう
な基本セットアップのメニューが表示されます。

ここで  キーでカーソルを変更したい項目にあわせて、 キーを
押すと変更可能な選択肢が表示されます。すべての設定が終了したら、
〔ESC〕キーを押してメインメニューに戻ってください。

基本セットアップ	
I/FボードIDナンバー	7
割り込みレベル (INT)	0
DMAチャンネル	3
メモリアドレス (ノーマル)	DC000~DCFFF
メモリアドレス (ハイレンジ)	EC000~ECFFF
パソコン設定	386/486以上の機種
I/Oベースアドレス	CC0

Logitech SCSIインターフェースボード セットアップ Ver x.xx
Copyright (C) Logitech Corp. 1995

インターフェースボードのSCSI-I/Dナンバーを設定します。
(特に指定のないかぎり出荷時設定のまま使用してください。)
[↑][↓]選択 [RETURN]実行 [ESC]終了

I/FボードIDナンバー

SCSIインターフェースボードのIDナンバーを設定しますが、通常の場合
は変更しないでください。



ご注意

ここで設定するのはインターフェースボードのIDナンバーであり、接続するSCSI機器のIDナンバーとは異なる番号を設定しなければならぬことにご注意ください。また、本製品では以前の弊社SCSIインターフェースボードのように、インターフェースボードのIDナンバーによってシステムの高速起動を行なう機能はありません。システムの高速起動は「拡張セットアップ」の「SCSI機器の詳細設定」から行ないます。詳細は3.4節をご参照ください。

割り込みレベル (I N T)

SCSIインターフェースボードの使用する割り込みを設定します。本製品は出荷時に「INT0」 (=IRQ3) の割り込みを使用するように設定されています。本製品と同じ割り込みを使用する周辺機器を併用する場合は、割り込みが重複しないように設定を変更してください。

割り込みの番号には、INT番号の表記方法とIRQ番号の表記方法があり、以下のように対応します。

INT番号	0	1	2	3	41/42	5	6
IRQ番号	3	5	6	9	10/11	12	13

DMAチャンネル

SCSIインターフェースボードの使用するDMAチャンネルを設定します。本製品は出荷時に、SASIハードディスクや2HDフロッピーディスクなど主な周辺機器と併用できるDMAチャンネルを指定してありますので、通常の場合変更の必要はありません。

特殊な周辺機器を併用する場合のみ、DMAチャンネルが重複しないように設定してください。

メモリアドレス (ノーマル)

メモリアドレス (ハイレゾ)

SCSIインターフェースボードの使用するローカルメモリアドレスを設定します。通常の場合は変更しないでください。

パソコン機種設定


パソコン本体がV30をCPUとしている場合、もしくはハイレゾモードを使用する場合のみ設定を変更してください。この「ハイレゾモード」はPC-98XA/XL/RLなどの高解像度モードのことで、いわゆるウィンドウズアクセラレータボードを指すのではないにご注意ください。

I / Oベースアドレス

SCSIインターフェースボードの使用するI/Oアドレスのベース値を設定します。通常の場合は変更しないでください。

3.4 拡張セットアップについて

メインメニューから「拡張セットアップ」を選択すると、以下のような拡張セットアップのメニューが表示されます。

ここで キーでカーソルを変更したい項目にあわせて、 キーを押すと変更可能な選択肢が表示されます。すべての設定が終了したら、〔ESC〕キーを押してメインメニューに戻ってください。

拡張セットアップ	
データ転送モード	AUTO
SCSI 転送方式	同期
同期転送時の転送速度	10 MByte/Sec
SCSI 機器の検索時間	05 秒
クイックリスタート	しない
SCSI 機器の詳細設定...	
特定機種の設定...	
カスタムセットアップ...	

Logitech SCSI インターフェイスボード セットアップ Ver x.xx
Copyright (C) Logitech Corp. 1995

パソコンとインターフェイスボード間のデータ転送モードを設定します。

[↑][↓]選択 [RETURN]実行 [ESC]終了

データ転送モード

インターフェイス パソコン間のデータ転送モードを「AUTO」、「I/O」、「DMA」から選択します。初期状態では「AUTO」に設定され、バスマスタモード、I/Oモード、DMAモードから最適なデータ転送モードが自動選択されます。

通常の場合、出荷時設定のままですが、パソコン本体の機種によっては、この設定を「I/O」に変更しなければならない場合があります。この設定を行わなければならない機種については、「1.2 接続可能なパソコン」をご参照ください。

SCSI 転送方式

本製品のデータ転送方式を「同期転送」、「非同期転送」から選択します。「同期転送」は「非同期転送」よりも高速です。通常の場合、初期設定の「同期転送」でご使用いただけますが、接続するSCSI機器の取扱説明書に「非同期転送」で使用するよう明記されている場合のみ、設定を変更してください。

同期転送時の転送速度

「SCSI 転送方式」で同期転送を選択した場合の転送速度を「10MByte/Sec」、「5MByte/Sec」から選択します。通常の場合、初期設定の10MByte/Secでご使用いただけますが、接続するSCSI機器の取扱説明書に5MByte/Secで使用するよう明記されている場合のみ、設定を変更してください。SCSI転送方式で「非同期転送」を選択した場合、この設定は無視されます。

SCSI 機器の検索時間

システム起動時に接続されているSCSI機器をチェックするための検索時間を設定します。この項目は選択後、検索時間を数値で入力します。



ご注意

検索時間をあまり短く設定すると機器によっては認識されない場合があります。初期設定（5秒）以下には設定しないようお勧めします。


クイックリスタート

この項目を「する」にしておくと、パソコン本体をリセットしたときの機器の接続チェックを短時間で終了させることができます。ただし、電源ON時の接続チェックは通常通りの時間がかかります。

SCSI 機器の詳細設定

この項目を選択すると、以下のようにIDナンバーごとの詳細設定が一覧表示されます。

SCSI 機器の詳細設定								
IDナンバー	<input checked="" type="checkbox"/>	1	2	3	4	5	6	7
ID認識	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON
クイックフォーマット	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
クイック領域確保	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
フォーマットプロテクト	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
ライトプロテクト	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF	OFF
HDパラメータ	AUT	AUT	AUT	AUT	AUT	AUT	AUT	AUT
ヘッド数	-	-	-	-	-	-	-	-
セクタ数	-	-	-	-	-	-	-	-

ここでは接続されているSCSI 機器ごとに詳細な設定を行なうことができます。設定を変更する場合には、キーでカーソルを変更したい機器のIDナンバーにあわせて  キーを押すと、下のような設定変更のウィンドウが表示されます。

このウィンドウに表示される項目については、以下の - 1 項 ~ - 7 項で説明します。すべての設定が終了したら、〔ESC〕キーを押すとSCSI 機器の詳細設定のウィンドウに戻ります。この時、変更した項目の表示が内容に応じて変化していることを確認してください。更に1回〔ESC〕キーを押すと拡張セットアップのメニューに戻ります。

ID-0	
<input checked="" type="checkbox"/> ID認識	ON
クイックフォーマット	OFF
クイック領域確保	OFF
フォーマットプロテクト	OFF
ライトプロテクト	OFF
HDパラメータ	自動認識
パラメータの入力	-

- 1 ID認識

この項目を「OFF」に設定しておく、システム起動時の接続チェックで対応するIDナンバーのチェックはスキップされます。ですから、接続されている機器のIDナンバーのみ「ON」に設定し、機器が接続されていないIDナンバーを「OFF」にしておく、システム起動時の接続チェックを高速で終了することができます。（これは以前の弊社SCSIインターフェイスボードでサポートしていた「システムの高速度起動」と同じです。）

ただしこの設定を行なった場合、SCSI機器の接続構成やIDナンバーを変更したら、必ず再設定を行なわなければなりません。これを行なわないとSCSI機器が認識されないトラブルが発生します。

- 2 クイックフォーマット
- 3 クイック領域確保

この2項目はSCSIハードディスクのフォーマット時間を短縮するための設定です。「クイックフォーマット」はフォーマットの第1段階である初期化を高速で終了します。「クイック領域確保」はフォーマットの第2段階である領域確保を高速で終了します。

ただし、どちらもトラブルの発生したハードディスクを再フォーマットする場合には、必ず「OFF」に設定してください。また、MS-DOS以外のOSではSCSI BIOSを使用しない場合がありますので、この設定は無効になります。

- 4 フォーマットプロテクト
- 5 ライトプロテクト

この2項目はハードディスクのデータ保護のために、ハードディスクへの書き込みを制限する設定です。「フォーマットプロテクト」を「ON」に設定すると、ハードディスクのフォーマット（初期化）のみが禁止されます。「ライトプロテクト」を「ON」に設定すると、BIOSを経由したハードディスクへの書き込みがすべて禁止されます。

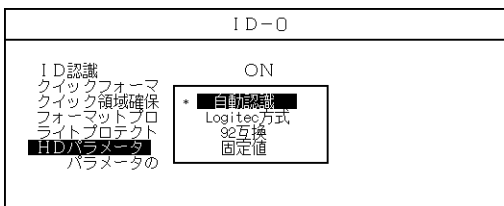
ただし、「フォーマットプロテクト」をONにしてあっても、領域の開放は可能ですのでご注意ください。また、MS-DOS以外のOSではSCSI BIOSを使用しない場合もありますので、この設定は無効になります。

- 6 HDパラメータ

HDパラメータはマルチベンダ機能に関する設定です。通常は初期設定通り「自動認識」でご使用ください。

「HDパラメータ」とは、フォーマット時にSCSIインターフェースボードによって設定され、システム起動時のハードディスク認識の際に必要な論理パラメータのことです。これを「自動認識」にしておくと、本製品はシステム起動時に接続されたハードディスクのパラメータを自動的に取得し、ドライブとして認識します。これが本製品のマルチベンダ機能です。

HDパラメータを自動認識以外に設定した場合、パラメータはそれぞれの形式（弊社従来形式、PC-9801-92互換形式、その他の固定値）に固定されるため、マルチベンダ機能を使用することはできません。これはマルチベンダ機能を持たないSCSIインターフェースとの互換性を維持するために用意された選択肢です。自動認識が正常に機能しない場合や、本製品でフォーマットしたハードディスクをマルチベンダ機能のないSCSIインターフェースボードに接続する場合に使用してください。



自動認識

自動認識の状態では、システム起動時にハードディスクから自動的にパラメータが取得されます。これによって弊社従来品、PC-9801-92互換品、PC-9801-55互換品などのSCSIインターフェースボードに接続してフォーマットを行なったハードディスクを認識することができます。

自動認識の状態でもフォーマットしたハードディスクをフォーマットすると、PC-9801-92互換（92互換）のパラメータが設定されます。また、すでにフォーマットされているハードディスクを再フォーマットする場合は、既存のパラメータが設定されます。

Logitec方式

この状態では、ハードディスクのパラメータは弊社従来品と互換性のある形式に固定されます。この状態でフォーマットしたハードディスクはマルチベンダ機能を持たない弊社従来SCSIインターフェースボードに再接続可能です。

（「自動認識」の状態でも新規フォーマットしたハードディスクは、PC-9801-92互換形式となるため、LHA-202を除く弊社従来品では認識できません。）

92互換


この状態では、ハードディスクのパラメータはPC-9801-92互換の形式に固定されます。これは他のパラメータですでにフォーマットされたハードディスクを、PC-9801-92互換形式で再フォーマットしたい場合に使用します。（「自動認識」の状態ですでにフォーマットしたハードディスクは、既存のパラメータが設定されるため、PC-9801-92互換形式となるとは限りません。）

固定値

これは自動認識でハードディスクのパラメータを読み込めない場合に使用します。この選択肢を選択した場合は、次の「パラメータの入力」でヘッド数、およびトラックあたりのセクタ数を入力しなければなりません。


- 7 パラメータの入力

この項目は「HDパラメータ」が「固定値」になっていないと実行できません。

「HDパラメータ」を「固定値」に設定した後で、キーでカーソルを「パラメータの入力」にあわせて  キーを押す

ID-0					
ID認識	ON				
クイックフォーマット	OFF				
クイック領域確保	OFF				
フォーマットプロテクト	OFF				
ライトプロテクト	OFF				
HDパラメータ	OFF				
パラメータの入力	<table border="1"> <tr> <td>ヘッド数</td> <td>000</td> </tr> <tr> <td>セクタ数</td> <td>000</td> </tr> </table>	ヘッド数	000	セクタ数	000
ヘッド数	000				
セクタ数	000				

と、以下のように小さな入力ウィンドウが表示されます。ここでハードディスクの論理パラメータ（ヘッド数、1トラックあたりのセクタ数）を直接入力します。入力は必ず3桁の整数で入力してください。桁数が3に満たない場合は、最初に「0」を付けます。例えば、「8」を入力したい場合は「008」と

入力してください。ヘッド数の入力終了したら、キーでカーソルがセクタ数の入力に移動します。両方の数値を入力したら、 キーを押すと、元のウィンドウに戻ります。ここで入力するパラメータは各SCSIインターフェースボード固有のもので、そのため、ハードディスクが接続されていたSCSIインターフェースボードのメーカーに論理パラメータ（ヘッド数、1トラックあたりのセクタ数）を問い合わせた正確な値を入力してください。





ご注意

- 6項、 - 7項で説明したHDパラメータは、対象とするSCSI機器がハードディスクの場合のみ有効です。選択したIDナンバーにハードディスク以外のSCSI機器が接続されている場合、設定は無視されます。

特定機種の設定

これはパソコン本体の機種によって行なわなければならない特有の設定を自動的に行なう項目です。「拡張セットアップ」のメニューでこの項目を選択すると以下のようなウィンドウが表示されます。

特定機種の設定	
特定のパソコンに接続する場合のハードウェアタイミングの変更を行います。 右欄のパソコンをご使用の場合、機種を選択してください。 該当しない場合は「その他」を選択してください。	 この欄に機種名が表示されます。

このウィンドウの右に記載された機種を使用している場合には、キーで該当する機種にカーソルをあわせて  キーを押してください。



もし、この設定を行なった後で本製品を取り外し、別のパソコン本体に接続しなおした場合には、必ず新しいパソコン本体にあわせてこの設定をやり直してください。

カスタムセットアップ

この項目は、何かのトラブルが発生して弊社テクニカルサポートから指示があった場合を除き、使用することはできません。「拡張セットアップ」のメニューから「カスタムセットアップ」を選択すると以下のように表示されます。



ここで弊社テクニカルサポートからお知らせするパスワードを入力すると、カスタムセットアップが使用できるようになります。指示に当たってセットアップを行なってください。




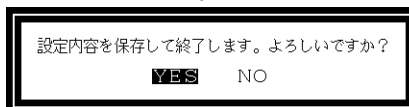
ご注意

カスタムセットアップの内容はハードウェアの基本的な部分を設定するため、ある意味で非常に危険です。もし、パスワードを手したとしても絶対に独断で設定しないでください。

3.5 セットアップの終了

「基本セットアップ」/「拡張セットアップ」の設定が終了したら、メインメニューから「保存終了」を選択してください。（もし、何かの原因で設定した内容を破棄したい場合は「中止」を選択してください。）

以下のメッセージが表示されますので、カーソルが「YES」にある状態で  キーを押してください。



3.5 セットアップの終了

以下のメッセージが表示されたら、設定した内容がSCSIインターフェースボード上のメモリに保存されました。ただし、設定した内容を有効にするためには一度リセットが必要です。パソコン本体のリセットボタンを押すか、電源をOFFにしてください。

設定内容を変更しました。
コンピュータのリセットスイッチを押してください。

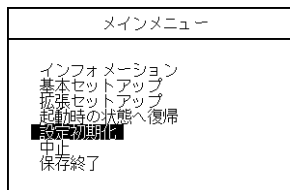
この後、接続したSCSI機器に応じて個々の作業（SCSIハードディスクのフォーマット、CD-ROMデバイスドライバのインストールなど）が必要となります。SCSI機器のマニュアルにしたがってそれぞれの作業を行ってください。

3.6 セットアップの初期化

何かのトラブル（セットアップを変更したらシステムが起動しなくなった場合など）が発生して、セットアップを工場出荷時の状態に戻りたいときは、以下のような方法でセットアップの初期化が可能です。

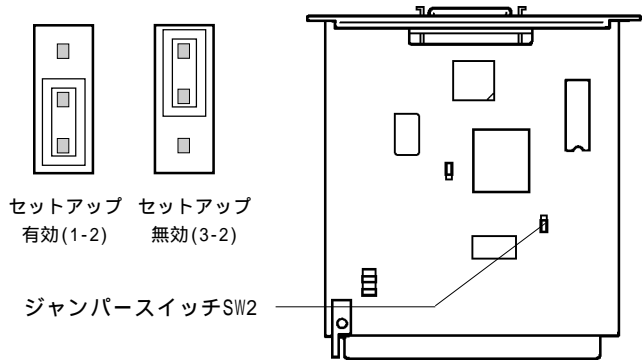
セットアップ起動が可能な場合

システム起動時に〔CTRL〕+〔L〕キーを押してセットアップを起動できる場合には、メインメニューから「設定初期化」を実行することによって、すべてのセットアップ内容を破棄して工場出荷時の状態に戻すことができます。



セットアップ起動が不可能な場合

〔CTRL〕 + 〔L〕キーを押してもセットアップが起動しなくなった場合には、SCSI インターフェイスボード上のジャンパースイッチSW2のジャンパープラグを「3-2」に変更することにより、セットアップ内容を無効にしてシステムを起動することができます。（下図参照）



この状態で〔CTRL〕 + 〔L〕キーを押しながらシステムを起動し、セットアップのメインメニューから「設定初期化」を実行すると、セットアップの内容を工場出荷時の状態に戻すことができます。

Point

セットアップの内容を修正したら、必ずセットアップを「保存終了」して、ジャンパースイッチSW2の設定を「1-2」に戻しておいてください。これを行なわないと修正したセットアップの内容が有効になりません。

！

ご注意

ジャンパースイッチSW2は設定を初期化するスイッチではなく、セットアップの内容を無視してシステムを起動するためのスイッチです。したがって、セットアップを「保存終了」しないでジャンパースイッチSW2を「1-2」に戻すと、以前のセットアップ内容がそのまま有効になってしまいますのでご注意ください。